

としては、原寛氏がブータンから報告した *H. sibthorpioides* Lam. f. *pilosa* Hara がある。しかしこれは葉の表面は無毛で、葉柄や葉の裏面に毛があり、果実もやや小さい。このような形のは東南アジアにも広く分布しているようで、チドメグサからは別の種類として扱われるべきで、むしろチドメグサに関係があるように思える。したがって琉球のものは f. *pilosa* とは関係がない。琉球のものは葉に毛があっても、いままで見過ごされていたように僅かであり、これだけで種を別にするにはできず、変種として扱うのが妥当であろう。変種名としては *tuberifera* が使われることになるが、上記したように不正確な理解のもとに付けられた名であって適当ではないが、それを承知した上で使うことが必要である。

Hydrocotyle sibthorpioides Lam. Encycl. Meth. 3: 153 (1789).

var. *pauciflora* (Yabe) Yamazaki, comb. nov.

Hydrocotyle rotundifolia Roxb. var. *pauciflora* Yabe, Rev. Umbel. Jap.: 14 (1902).

Hydrocotyle yabei Makino in Bot. Mag. Tokyo 24: 243 (1910).

Distr. C. to W. Honshu (westward from Fukushima pref.). Shikoku and Kyushu (northward

from Amami Islands).

var. *tuberifera* (Ohwi) Yamazaki, comb. et stat. nov.

Hydrocotyle tuberifera Ohwi in J. Jap. Bot. 26: 232 (1951).

Hydrocotyle keelungensis Liu, Chao et Chuang in Tech. Bull. Exper. Forest Nat. Taiwan Univ. no. 26: 15, f. 15 (1961), syn. nov.

Distr. Ryukyu (southward from Okinawa Isl.) and Taiwan.

Key to the varieties of *Hydrocotyle sibthorpioides* in Japan

- A. Leaves glabrous on both surfaces, petiole glabrous.
 - B. Leaves lobed to upper 1/4–1/3, lobes obtuse at apex, crenate-toothed... var. *sibthorpioides*
 - B. Leaves lobed to upper half, lobes subacute at apex, subacute-toothed... var. *pauciflora*
 - A. Leaves sparsely setose on nerves of upper (rarely lower) surface, petiole usually long-pilose at apex... var. *tuberifera*
- (東京大学理学部附属植物園)

ツクシゼリについて (山崎 敬)

Takasi YAMAZAKI: On *Angelica longeradiata* (Maxim.) Kitagawa

ツクシゼリはシシウド属 *Angelica* のものとして扱われているが、他の種類との間には外見的にかなりの相違があって不自然である。葉が多数の細かい裂片に裂けるものは *A. pyrenaica* (L.) Sprengel があるくらいで、他には見当たらない。近縁のカワラボウフウ属 *Peucedanum* には類似した外観のものが多数あるのだから、その所属について再考する必要がある。ツクシゼリは九州の山地のやや乾いた草地に生えていて、このような分布や生育状態から、他所に類縁のものが古い種類とは考えられない。大陸に近縁の種類があるはずである。調べてみるとこれに最も近い種類は朝

鮮の金剛山に生育する *Peucedanum koreanum* Nakai が該当する。外観からは殆ど区別がつかないくらい類似している。これらはさらに満州からダフリアに分布する *Peucedanum baicalense* (Redow.) Koch に関連づけられる。したがって、ツクシゼリは *Peucedanum* として扱うほうが適切だと考えられる。Maximowicz は新種として報告する際に *Selinum longeradiatum* として記載した。*Selinum* は *Peucedanum* に非常に近い属である。ツクシゼリがなぜ *Angelica* として扱われるかにはそれなりの理由がある。*Peucedanum* の背面の3本の稜は細くて尖るがあまり外側に張り出さな

い。 *Angelica* では稜は外側に鋭く張り出すので区別される。 ツクシゼリは稜が張り出しているのである。 この特徴からすれば *Angelica* に所属させることになるが、機械的な扱いだと思ふ。 ヨーロッパ南部の *Angelica pyrenaica* は最近 *Selinum pyrenaicum* (L.) Gouan. として所属が変更されている (F1. Europ. 2: 355, 1968). *Peucedanum* は果実の背面の稜が高く尖るのに対し、 *Selinum*

um は稜が低くて先が鈍いのである。 ツクシゼリは稜が高く縁は尖っているから *Peucedanum* になる。 屋久島のもは稜が低く先は鈍いので *Selinum* に所属させてもおかしくない。 しかし屋久島のもはツクシゼリから分化したとしか考えられないので、むしろ *Selinum* と *Peucedanum* とを区別するのが不自然なのであろう。 *Angelica*, *Selinum*, *Peucedanum* は非常に近く、 属の区別は困難

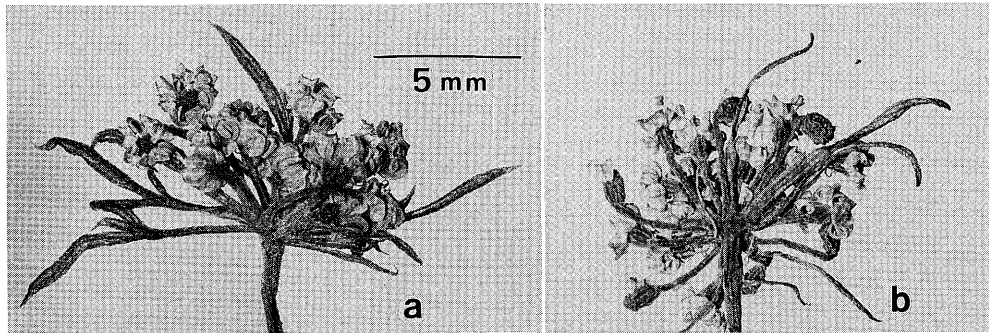


Fig. 1. Umbellets. a. *Peucedanum yakushimense*. Yakushima, Miyanouradake (Yamazaki et al. 2139, Jul. 1979), involucrellate bracts deeply lobed. b. *P. longeradiatum*. Sakurazima (Hashimoto, Aug. 30, 1950), involucrellate bracts entire, not lobed.

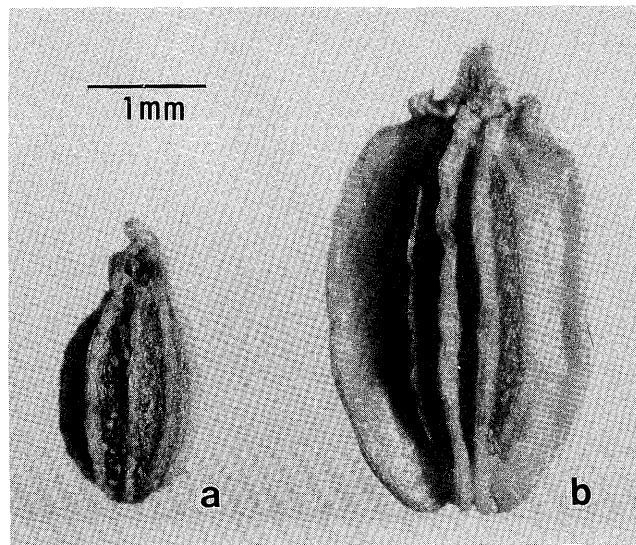


Fig. 2. Fruits. a. *Peucedanum yakushimense*. Yakushima, Nagatadake (Murata et al. 17187, Oct. 1984). b. *P. longeradiatum*. Pref. Ōita, Tsurumidake (Togashi 7421, Oct. 1961).

である。これらの属の分類については検討する必要があるが、それはセリ科全体の分類体系と関連するのでなかなか難しい問題である。*Angelica* と *Peucedanum* とを認めるならツクシゼリは後者に属することになる。

屋久島のツクシゼリはかつて *Cnidium* の新種として報告されたことがあるが、現在はツクシゼリに合一されてしまっている。しかし全体が小さいというだけでなく、小散形花序の小包葉片は全縁のものもあるが、多くは線形の裂片に2-3裂し、尖った明らかな萼片を持ち(図1, a), 果実は小さく長さ2mmほどで、分果の両側の翼もごく狭い(図2, a), ツクシゼリは小包葉片は裂けず(図1, b), 果実は大きい(図2, b)。ツクシゼリには時に丈が小さくなり、高さ5cmほどになるものもあり、外観は屋久島のものに似ているが、小包葉の形は変わらない。両者は著しく異なるのでそれぞれ別の種類として認めるべきである。

東大の標本室には正宗巖敬氏が採集した屋久島の標本があり(Masamune, Aug. 31, 1926), 2個体が貼られている。1つは全体が小さなヤクシマツクシゼリであるが、もう1つは高さ15cmほどあり小包葉の形からもツクシゼリそのものである。この標本がいままで屋久島のものはツクシゼリと異ならないという根拠とされていたと思われるが、現在まで屋久島ではこの標本以外にツクシゼリは見つかっていない。正宗氏が屋久島のものを新種

とする際、比較のために九州本土の標本を入手し、屋久島の標本と一緒に貼ったのではないかと推測される。この標本は屋久島産から除外すべきである。

***Peucedanum longeradiatum* (Maxim.) Yamazaki, comb. nov.**

Selinum longeradiatum Maxim. in Bull. Acad. Sci. St.-Pet. **31**: 50 (1886).

Cnidium longeradiatum (Maxim.) Yabe, Rev. Umble. Jap.: **61** (1902).

Angelica longeradiatum (Maxim.) Kitagawa in Bot. Mag. Tokyo **51**: 659 (1937).

Jap. name. Tsukushizeri.

Distr. Kyushu. In sunny meadows on mountains, more or less dry places at altitudes of 900-1600m.

***Peucedanum yakushimense* (Masamune et Ohwi) Yamazaki, comb. nov.**

Cnidium yakushimense Masamune et Ohwi in Act. Phytotax. Geobot. **4**: 66 (1935).

Angelica longeradiatum (Maxim.) Kitagawa var. *yakushimense* (Masamune et Ohwi) Kitagawa in Bot. Mag. Tokyo **51**: 659 (1937).

Jap. name. Yakushima-tsukushizeri, Hina-bōfū.

Distr. Kyushu, Isl. Yaku. On rocks on mountains at altitudes of 1600-1800m.

(東京大学理学部附属植物園)

タイワンシンラン琉球に分布 (山崎 敬)

Takasi YAMAZAKI: *Lysionotus warleyensis* Willmott newly found in the Ryukyus

沖縄本島中部の八重岳近くで、琉球では今まで知られなかったシンラン属の植物が発見された(Fig. 1)。調べてみると中国中部、南部から台湾に広く分布するタイワンシンラン *Lysionotus warleyensis* Willmott であることがわかった。発見者の沢岷安喜氏によれば、高さ400mほどの山頂近くの岩地のコケの中に這っていたという。現地はアメリカ軍の演習場で入れなかったが、最近入れられるようになった場所で、幾つかの面白い分布の

植物が見つかったという。琉球のタイワンシンランは葉の幅が広く、一見台湾の紅頭嶼の *L. ikedae* Hatusima に似るが鋸歯が尖るので異なる。

Lysionotus warleyensis はシンラン *L. pauciflora* Maxim. に近い種類で、以前は台湾の植物にこの学名が使われていたが、最近中国でも台湾でも両者を同一種類としてしまっている。しかし両者は葉の形が異なる。シンランは葉が細く、基部は次第に葉柄に流れる。台湾、中国のものは一